

目次

題字	望月町長 佐藤幸男	46
口絵 写真		50
刊行のことば	望月町誌刊行会長 佐藤幸男	i-1
編纂のことば	望月町誌編纂委員長 森嶋 稔	i-3
例言		i-5
第一章 支配体制		3
第一節 藩体制の確立		3
一 小諸藩		3
二 幕府領		16
三 甲府徳川領		22
四 岩村田藩		24
五 祢津知行所		27
六 下県知行所		29
第二節 藩政の推移		32
一 藩体制		32
二 領内支配		36
三 藩政改革(藩財政と村方)		39
第三節 藩体制の崩壊		43
一 幕末変動		43
二 米艦渡来		44
第二章 村の成立としくみ		57
第一節 村役人		57
第二節 村の機能		65
第三節 村入用(村の財政)		71
第四節 女衆		78
第五節 戸口		85
第六節 家族と同族		92
第七節 生活		99
第八節 身分・階層		105
第九節 被差別部落		112
第一〇節 村方騒動		120
第一一節 旧村小史		126
第三章 宗門改と鉄砲改		175
第一節 宗門改		175
第二節 鉄砲改		208
第四章 検地と土地制度		221
第一節 検地		221
三 和宮降嫁		46
四 天狗党通過		50
五 長州戦争		52

一	初期の検地	221
二	初期の再検地	229
三	安永の検地	242
四	田畑直し	248
五	水損改め	255
六	起返(起帰)	258
七	切添	262
八	無地高	266
第二節	村高変遷	268
一	村高の確定	268
二	村高の変化	270
第三節	林検地	270
第五章	貢租と課役	281
第一節	貢租	281
一	年貢割付状(領地別・時代別変遷)	282
第二節	小物成	325
一	小物成の種類	325
第三節	運上・冥加	331
第四節	課役と高掛物	335
第六章	農業	345
第一節	新田開発	345
一	還任政策	345
二	新田開発	346

三	各新田の開発	347
第二節	耕作	353
一	稲作	353
二	畑作	359
三	農具	363
四	肥料	366
第三節	堰と池	368
一	用水堰	368
二	新堰(堰の開削)	369
三	溜池	375
四	掛樋	380
五	用水管理	380
第四節	農業経営	381
一	地主経営	381
二	小作人	384
三	小作慣行	384
四	奉公人	386
五	自作農	387
六	潰百姓	388
七	家畜	389
第五節	農地の移動	391
一	田畑の売買	391
二	田畑の質入	393

三 土地証文……………	396	五 御巢鷹山……………	434
第六節 土地の表示と柵・秤……………	397	第三節 私有林……………	436
一 土地の表示……………	397	一 私有林……………	436
二 柵……………	398	二 村 林……………	439
三 秤……………	402	三 百姓林の管理……………	440
四 蒔……………	403	第四節 利 用……………	441
五 塚……………	404	一 林野の規模と概況……………	441
六 俵……………	405	二 森林の利用……………	445
七 駄……………	406	三 原野の利用……………	451
第七節 養蚕業……………	407	第八章 諸産業……………	459
一 養 蚕……………	407	第一節 醸造業……………	459
二 桑 園……………	408	第二節 諸職人……………	475
三 蚕 種……………	410	第三節 諸 職……………	479
第七章 林 業……………	415	第四節 奉 公……………	485
第一節 入 会……………	415	第九章 商 業……………	499
一 入 会……………	415	第一節 見世と商品……………	499
二 入会紛争……………	417	第二節 商 人……………	508
三 山論・境論……………	421	第三節 村の金融……………	511
第二節 御 林……………	425	第四節 温 泉……………	514
一 御 林……………	425	第一〇章 交通・運輸……………	519
二 管理と植林……………	429	第一節 街 道……………	519
三 役 人……………	430	一 中山道・甲州道中……………	519
四 払 物……………	432	二 水害と復旧……………	525

第二節 望月宿	531
一 望月宿の成立と構成	531
二 宿の機構	536
三 宿の経営	546
第三節 伝馬・助郷	564
一 人馬の継立	564
二 助郷出入	573
第四節 脇往還	582
第五節 中馬稼	589
第六節 旅人	595
第一章 災害	607
第一節 飢饉凶作	607
第二節 救荒対策	623
第三節 風水害	630
第四節 火災	644
第五節 疫病	649
第二章 教育・文化	655
第一節 寺子屋	655
一 諸学	655
二 寺子屋	657
第二節 文芸	666
一 和歌・俳諧	666
二 詩と文	672

三日 記	675
第三節 美術	677
一 書	677
二 絵	679
三 文化の普及	680
第四節 神社建築	681
一 神社の起源と望月の神社	681
二 古代の佐久の神社	682
三 望月町域の神社建築	689
四 長野県と望月町域の神社の特徴	701
五 まとめ	710
付 建築専門用語の解説	711
第五節 江戸時代の医療と医師	713
第六節 武芸	719
一 武芸	719
二 各武芸諸流派	720
第七節 村絵図	721
第十三章 信仰	729
第一節 神社	729
一 鎮守と信仰	729
二 神社の所在地	729
三 各神社	731
四 御神幸	737

	五 起請文・立願	738
第二節	寺 院	739
一	近世の寺院	739
二	江戸時代寺院一覧表	740
三	曹洞宗の寺	740
四	浄土宗の寺	746
五	真言宗の寺	747
六	天台宗の寺	749
七	その他の寺	751
第三節	修 験	752
一	山伏と修験	752
二	異験記	754
第四節	講 社	755
一	講	755
二	講 社	756
三	縁起書 他	757
第五節	信 仰	757
一	諸祈禱	757
二	霊地巡拝	759
第六節	行 事	761
一	祭	761
二	芝居・踊	764
三	儉約定書	766

	参考文献	ii-1
	第四卷 歴史編二(近世編) 編纂委員	ii-5
	執筆分担	ii-6
	望月町誌刊行会規則	ii-9
	望月町誌刊行会委員名簿	ii-10
	望月町誌編纂委員会規則	ii-11
	望月町誌編纂室・事務局名簿	ii-12
	編集後期	ii-13

図版・写真・表 目 次

第一章 支配体制

表 1	小諸藩城主一覽表	3
表 2	忠長系図	4
表 3	牧野氏系図	10
表 4	第二次幕府領時代の代官名	17
表 5	近世佐久地方幕府領の陣屋と代官	17
表 6	第三次幕府領時代天明三年までの春日村の代官の動き	18
表 7	ご祝儀割合と検見お礼	19
表 8	御影陣屋代官の変遷	20
表 9	中之条陣屋代官一覽表	20
表 10	徳川綱重・綱豊の略系図と略歴	22
表 11	甲府支配代官関係	23
表 12	内藤氏系図	25
表 13	岩村田藩主表	26
表 14	松平家の家系	27
表 15	祢津旗本略年表	28
表 16	下県知行所の代官	29
表 17	望月町域村別所領別図	31
表 18	小諸藩牧野氏の職制	32
表 19	文政六年(一八二三)小諸藩分限帳による職制	33

第二章 村の成立としくみ

表 20	下級武士その他扶持支給者	35
表 21	天明二年(一七八二)岩村田藩の職制	36
表 22	元治元年(一八六四)非常備小平村内組織	51
図 1	小平村人口の変遷	85
図 2	望月新町の人口の推移	87
図 3	片倉村人口と戸数の変遷	90
図 4	文化十三年(一八一六)片倉村年令別人口構成	91
図 5	天保五年(一八三四)片倉村年令別人口構成	92
図 6	春日村百姓の階層別戸数の変化	109
図 7	天保九年(一八三八)の春日新町村絵図	153
写 1	寛文八年(一六六八)望月宿文書	57
写 2	明和二年(一七六五)春日村文書御地頭様御引替り之節萬覚帳	59
写 3	明和三年(一七六六)春日新町村文書	63
写 4	安永八年(一七七九)印内村文書	65
写 5	元禄十一年(一六九八)春日新町村の郷中定書	69
写 6	享保十八年(一七三三)沓沢新田村村入用夫銭帳	72
写 7	元禄七年(一六九四)・寛政四年(一七九二)・文化	

十四年(一八一七)の宗門人別帳	80
写 8 女衆が建立した二十三夜塔	82
写 9 現在の牧布施区	83
写 10 天保五年(一八三四)片倉村人別御改帳	91
写 11 天保十三年(一八四二)望月新町文書の表紙と書き出し部分	101
写 12 藍染めの夜具	102
写 13 享和三年(一八〇三)婚礼祝儀献立の書き出し部分	103
写 14 明和三年(一七六六)春日村文書	109
写 15 近世から被差別部落の信仰を集めていた白山社	115
写 16 部落の人々が長吏職として捕吏に使った十手	119
写 17 宝暦十一年(一七五二)小平村小百姓が江戸屋敷に提出した訴状の写	121
写 18 現在の福王寺	124
写 19 現在の望月新町附近	129
写 20 現在の観音寺	134
写 21 権重稻荷社	135
写 22 現在の式部	140
写 23 念仏供養塔	149
写 24 現在の春日村	151
写 25 天保九年(一八三八)入方倉の如意輪観音の碑	155
写 26 玉泉院の本尊阿弥陀如来坐像	157
写 27 十九夜様	159

写 28 王塚古墳	161
写 29 現在の天神	163
写 30 貴船神社跡地に建つ記念碑	165
写 31 福王寺全景	169
写 32 将軍地蔵尊	171
表 1 元禄十三年(一七〇〇)天神林村五人組の構成	68
表 2 享保十八年(一七三三)沓沢新田(雁村)村入用夫錢帳にみる村入用の内容	72
表 3 沓沢新田村(現雁村)村財政の推移	74
表 4 村入用の収支(1) 寛政二年(一七九〇)村入用夫錢書上帳より	75
表 5 村入用の収支(2) 元治二年(一八六五)村入用夫錢書帳より	75
表 6 文政十二年(一八二九)入布施村の決算書	77
表 7 望月新町村 人口増減の原因	88
表 8 一世帯の家族人数、元禄七年(一六九四)小平村	93
表 9 一世帯の家族人数(抱百姓を別世帯とした場合)元禄七年(一六九四)小平村	93
表 10 一世帯の家族人数、安政二年(一七七三)小平村	93
表 11 一世帯の家族人数、文化十三年(一八一六)片倉村	94
表 12 通婚圏(小平村へ嫁した女房たちの実家と数)	97
表 13 通婚圏(望月新町に嫁いだ女房たちの実家と数)	98

表 14 宝曆二年（一七五二）春日村岡部家「建具疊竹木寛」…… 100

表 15 延宝六年（一六七八）午ノ五月幾利支丹宗門御穿鑿御改帳…… 106

表 16 延宝五年（一六七七）・元禄七年（一六四九）・享保十六年（一七三二）小平村身分別持高分布…… 107

表 17 被差別部落呼称の変遷…… 113

表 18 小平村の部落戸数人口の変遷…… 114

表 19 A寺院被差別部落の戒名…… 117

表 20 B寺院被差別部落の戒名…… 118

表 21 明和二年（一七六五）小平村百姓身分別持高分布…… 123

表 22 抜井村の土地所有状況…… 143

表 23 正徳五年（一七一五）杳沢新田の土地内容…… 147

第三章 宗門改と鉄砲改

図 1 火繩銃…… 209

写 1 寛文十一年（一六七二）牧布施村宗門改帳…… 176

写 2 万治二年（一六五九）キリシタン禁制高札の写…… 180

写 3 寛永二十年（一六四三）比田井村人数帳…… 185

表 1 明和四年（一七六七）杳沢新田（雁村）の宗門人別表…… 187

表 2 安永十年（一七八一）春日村宗門別内訳表…… 188

表 3 延宝九年（一六八一）雁村、与惣右衛門家内、構成表…… 193

表 4 元禄八年（一六九五）小平村名主貞右衛門家内の明

細表…… 195

表 5 片倉村の寺院別檀那数の変遷表…… 208

表 6 春日村獵師鉄砲数と鉄砲役（税）の変遷…… 211

第四章 検地と土地制度

写 1 寛永六年（一六二九）春日村の検地帳…… 221

写 2 寛文十年（一六七〇）望月村の検地帳…… 231

写 3 小平村郷林地取り目録見絵図…… 271

表 1 寛永六年（一六二九）春日村検地の集計表…… 222

表 2 寛永六年（一六二九）春日村検地の日付・場所・筆数・反別表…… 223

表 3 寛永六年（一六二九）春日村検地の名請人別集計表（反別順）…… 224

表 4 寛永六年（一六二九）小平村のうち八丁地・野竹の検地集計表…… 227

表 5 寛永十三年（一六三六）春日村新田検地の集計表…… 229

表 6 寛文十年（一六七〇）小諸領総検地の集計表…… 230

表 7 寛文十年（一六七〇）望月村の田畑字別集計表…… 234

表 8 寛文十年（一六七〇）望月村の開作反別と石高…… 236

表 9 寛文十年（一六七〇）茂田井村の検地集計表…… 238

表 10 小平村の屋敷と名請人の変遷…… 240

表 11 安永八年（一七七九）春日村新田検地の字別集計表…… 246

表 12 安永八年（一六三一）小平村新田検地字別集計表…… 247

表 13	元禄十五年（一七〇二）春日村田畑・屋敷明細表	251
表 14	春日村、戌の満水前後の水損高集計表	256
表 15	望月町の年次別水損高集計表	256
表 16	貫高から石高へ	268
表 17	小平村の石高変化	270
表 18	元禄四年（一六九二）天神林村の林検地	272
表 19	宝永五年（一七〇八）望月町の字別林集計表	272
表 20	宝永八年（一七一二）望月新町の新林検地	273
表 21	享保三年（一七一八）春日村・同新町の百姓林	274
表 22	寛政四年（一七九二）小平村百姓持林反別表	275
第五章 貢租税と課役		
写 1	寛永六年（一六二九）年貢割付状	282
写 2	寛永七年（一六三〇）年貢割付状	283
写 3	寛文十二年（一六七二）年貢割付状	285
写 4	寛永十六年（一六三九）年貢割付状	289
写 5	寛永十八年（一六四二）年貢割付状	289
写 6	正徳元年（一七一）年貢割付状	294
写 7	慶安四年（一六五一）年貢割付状	295
写 8	名寄帳	317
写 9	寛永十八年（一六四二）年貢預りの覚え	322
表 1	松平時代の年貢の動き	283
表 2	青山時代の小平村年貢の動き	284

表 3	酒井時代の年貢の動き	284
表 4	青山・酒井時代の引き数	286
表 5	西尾・石川時代の年貢の動き	286
表 6	牧野時代の年貢の動き	287
表 7	春日新町第一次幕府領時代年貢の動き	288
表 8	第二次幕府領時代の年貢の動き	290
表 9	松本藩預かり時代の年貢の動き	291
表 10	第三次幕府領時代の年貢の動き	292
表 11	甲府時代の年貢の動き	293
表 12	岩村田藩の年貢の動き	295
表 13	祢津時代の年貢の動き	296
表 14	祢津時代の年貢の動き	297
表 15	下県知行所時代の年貢割付の動き	299
表 16	寛永十六年（一六三九）の春日新町の反取	301
表 17	小平村の安永一〜寛政三年までの年貢の動き	302
表 18	宝永二年（一七〇五）下県知行所の年貢下組	304
表 19	天保六年（一八三五）の堰関係引き高	306
表 20	天保時代三か村の当年引き高	308
表 21	寛永二十年（一六四三）の春日村と春日新町の年貢率	309
表 22	望月新町の寛文の検地による石高の増加と年貢割合	309
表 23	天和元年（一六八一）の年貢割合	309
表 24	貞享四年（一六八七）の厘付	310
表 25	元禄一〜宝永二年までの厘付	310

表 26	町域村高の動き……………	311	写 10	千齒……………	364
表 27	下県知行所時代の享保五年（一七二〇）延米・口米の割合……………	314	写 11	大鋸……………	364
表 28	両替の割合……………	316	写 12	使い込んだ鎌……………	365
表 29	貞享四年（一六八七）の甲府領の年貢両替の違い……………	316	写 13	畚……………	365
表 30	慶安元年（一六四八）青山宗俊引渡証文……………	328	写 14	馬の沓……………	366
表 31	宝暦二年（一七五二）小諸藩小物成割合……………	329	写 15	刈草の野積堆肥……………	366
表 32	安永三年（一七七四）御用金七か村割合……………	333	写 16	細小路川水源……………	369
表 33	役所無尽の様子……………	335	写 17	谷田堰の揚手……………	374
表 34	文化十三年（一八一六）八幡宿三村の比較……………	336	写 18	商人久保池……………	376
図 1	望月町域の用水堰……………	370	写 19	堰をまたぐ樋……………	380
図 2	谷田堰と溜池……………	373	写 20	谷田堰……………	381
写 1	寛永六年（一六二九）開発許可証文……………	349	写 21	寛政七年（一七九五）直小作の証文……………	385
写 2	寛文八年（一六六八）新田申付証文……………	351	写 22	寛文四年（一六六四）永代売渡証文……………	391
写 3	春日村の田畑の航空写真……………	353	写 23	享保十二年（一七二七）永代売渡証文……………	395
写 4	宝暦十年（一七六〇）農業全書……………	354	写 24	明和五年（一七六八）質地証文……………	395
写 5	ぼつさら打棒・豆打棒……………	356	写 25	明和五年（一七六八）土地証文の奥書……………	396
写 6	人參畑の土篩……………	362	写 26	鉄判枡……………	400
写 7	風呂鍬……………	364	写 27	信玄枡……………	400
写 8	踏鋤……………	364	写 28	社秤（二〇貫）と秤……………	402
写 9	馬鍬……………	364	写 29	文化二年（一八〇五）秤改合格証明……………	403
			写 30	奥州高助の仕立……………	410
			表 1	近世初期の開発……………	347

表 2	抜井村田畑の増加……………	348
表 3	安永六年（一七七七）稲作の記録……………	335
表 4	水稻品種の変遷……………	356
表 5	林家が準備した種籾……………	357
表 6	稲作経営の指標……………	359
表 7	稲作物の栽培（麦を除く）……………	360
表 8	麦作の記録……………	361
表 9	近世川西地方の堰……………	368
表 10	望月町域の堰と灌漑規模……………	371
表 11	水系ごとの主な用水堰……………	371
表 12	町域にかかわる主な溜池……………	375
表 13	小諸藩よりの御人足割合……………	377
表 14	両所溜池目論見……………	378
表 15	宝永五年（一七〇八）藤右衛門家の雇人……………	382
表 16	元禄十七年（一七〇四）地主の手作経営……………	382
表 17	百姓の土地所有状況……………	383
表 18	持高五石に満たない百姓の例……………	383
表 19	寛政七年（一七九五）直小作の証文……………	385
表 20	宝永五年（一七〇八）長期契約の奉公……………	386
表 21	馬飼育数……………	390
表 22	四郎右衛門家の土地所有……………	393
表 23	明治六年（一八七三）楠太郎が取得した土地……………	393
表 24	代表的枿の種類……………	399

表 25	土地証文にみる「蒔」……………	404
表 26	宝暦十年（一七六〇）畑作物の収穫量……………	405
表 27	桑苗等植付報告……………	409
表 28	桑苗反別明細……………	410
第七章 林業		
図 1	春日村等四か村の山々……………	443
写 1	春日谿谷の木々……………	415
写 2	元禄四年（一六九二）内野交換文書……………	420
写 3	鷹狩の大鷹……………	434
写 4	木障の刈上……………	440
写 5	享和元年（一八〇二）萱刈取願……………	445
写 6	栗の大木……………	450
写 7	石置板屋根……………	450
写 8	萱葺屋根……………	455
写 9	萱葺屋根……………	455
写 10	口明け前の萱……………	456
表 1	望月町域の入会の村々……………	416
表 2	入会山論文書……………	418
表 3	小諸藩御林……………	428
表 4	天明八年（一七八八）・慶応二年（一八六六）沓沢新田百姓持林……………	438

表 5	望月町域の山林原野……………	442
表 6	春日村等四か村の野山の地名……………	444
表 7	薪炭の必要量……………	447
表 8	弘化四年（一八四七）諏訪山渡薪席々……………	448
表 9	元治元年（一八六四）藩内薪配分の変更……………	449
表 10	安政六年（一八五九）高橋家の草刈……………	452
表 11	屋根普請、葺替諸入用……………	456
第八章 諸産業		
写 1	酒造鑑札……………	459
写 2	元禄の酒と成分表……………	460
写 3	酒の銘柄が見られる広告……………	465
写 4	酒造の大釜……………	467
写 5	酒徳利……………	471
写 6	天保九年（一八三八）酒造鑑札請書……………	473
写 7	石工用具……………	477
写 8	杣用具……………	478
写 9	水車鑑札……………	480
写 10	奉公人請状……………	490
表 1	寛政九年（一七九七）奥土蔵普請入用帳……………	477
表 2	広右衛門分車屋帳の内容……………	481
表 3	天保十五年（一八四四）車屋帳に見る利用者名……………	481
表 4	御中間名前人数表……………	486

表 5	子供の奉公先と人数……………	490
表 6	奉公先……………	491
表 7	奉公人と実家の戸主との関係……………	491
表 8	比較表……………	492
表 9	下男・下女表……………	492
第九章 商 業		
図 1	文化元年（一八〇四）望月宿絵図の一部……………	500
図 2	八か宿が経営難渋した原因説明図……………	503
図 3	文政十年（一八二七）諸国道中商人鑑の中の望月宿分……………	504
写 1	文化元年（一八〇四）望月宿絵図の一部……………	500
写 2	文化八年（一八一）御見舞を記録した文書……………	506
写 3	御改革で値下げ幅まで通達した……………	507
写 4	現在の春日地区商店街……………	508
写 5	元和二年（一六一六）に幕府から許可を得たという 享保二十年（一七三五）の御香具免状の書出し部分……………	510
写 6	天保二年（一八三一）望月新町発起無尽に関する出 入での訴状の書き出し部分……………	513
写 7	現在の春日温泉入口……………	516
表 1	望月宿の「見せ」は、六十二年の間にどう変わったか……………	501
表 2	旅籠、見せ、茶屋数の比較……………	502
表 3	幕府御改革により諸物価値下げの定……………	508

第一〇章 交通・運輸

写 1	寛政元年（一七八九）馬代金貸付覚帳……………	538
写 11	本陣に宿泊・休息した大名などの関（宿）札……………	542
写 12 の 1	脇本陣鷹野家外観……………	542
写 12 の 2	脇本陣の看板……………	542
写 13	延宝三年（一六七五）木質改定の触状……………	543
写 14	安政四年（一八五七）真山氏日記帳……………	543
写 15	安永七年（一七七八）飯盛女につき定書……………	544
写 16	国の重要文化財に指定された「大和屋」……………	546
写 17	人馬賃銭割増賃勿銭帳入箱……………	550
写 18	旅籠屋二三軒へ修復御手当金割渡請印帳……………	556
写 19	天保四年（一八三三）難波の居家大破・焼失の者書上……………	556
写 20	詫趣意金割合帳の覚……………	560
写 21	安政四年（一八五七）宿役人の拝借金証文……………	562
写 22	本陣拝借金返納方仕法付……………	563
写 23 の 1	人馬触の廻状……………	570
写 23 の 2	人馬触の廻状……………	570
写 24	芦田・望月両宿馬不足に付内談一札……………	574
写 25	安永六年（一七七七）望月宿と助郷一五か村出入覚書……………	577
写 26	本牧小学校前の巡見道標……………	585
写 27	布施道標……………	587
写 28	中山道瓜生坂……………	596
写 29	春日温泉への道標……………	599
写 30	四国八十八か所巡礼碑……………	600
図 1	中山道要図……………	520
図 2	中山道千曲川往還橋組合村々……………	526
図 3	望月宿と望月新町位置図……………	534
図 4	文化元年（一八〇四）望月宿宿割図……………	536
図 5	文政六年（一八二三）新築された望月宿本陣絵図面……………	541
図 6	望月宿近村概念図……………	584
図 7	上信交通路図……………	585
図 8	武石峠新道概念図……………	587
図 9	中山道六十九次図……………	596
図 10	『金草鞋木曾街道之記』望月……………	599
写 1	杠秤……………	519
写 2	笠取峠の松並木……………	523
写 3 の 1	安永八年（一七七九）武士の関所手形……………	525
写 3 の 2	文化四年（一八〇七）庶民の往来手形……………	525
写 4	天明六年（一七八六）中山道千曲川橋掛替等請負証文……………	528
写 5	天保十四年（一八四三）布施川百沢橋組合村々……………	530
写 6 の 1	大森氏家系代々旧記……………	532
写 6 の 2	代々旧記内容の一部……………	532
写 7	慶長七年（一六〇二）伝馬定書写……………	532
写 8	慶長七年（一六〇二）定路次中駄賃覚……………	533
写 9	寛永十二年（一六三五）田畑開発奨励手形……………	534

写31 道しるべ……………601

表1 千曲川往還橋架橋方式の変遷……………527

表2 寛政十二年(一八〇〇)望月宿・同新町家数等……………535

表3 文化元年(一八〇四)望月宿の旅籠屋……………545

表4 望月宿より八幡・芦田宿への御定賃銭……………547

表5 嘉永二年(一八四九)望月宿相对賃銭……………547

表6 人馬賃割増の変遷……………549

表7 文化・天保・安政期の望月宿収支調……………551

表8 安政二年(一八五五)の望月宿入用調……………552

表9 望月宿本陣火災復旧のため諸家方よりの手当金……………557

表10 望月宿諸家方本陣休泊数……………558

表11 佐久郡内九宿助郷調……………566

表12 川西四宿(塩名田・八幡・望月・芦田)付き助郷の変遷……………567

表13 芦田・望月両宿付き助郷……………568

表14 芦田・望月両宿加助郷村々……………568

表15 望月宿における人馬継立数と宿勤・助郷勤の割合……………571

表16 安政元年(一八五四)望月宿付き助郷出人馬過不足平均……………573

表17 望月宿隣宿の勤方次第書上……………578

表18 望月宿助郷出入による人馬遅参・不参と継立の措置状況……………579

表19 明和裁許の中馬かせぎ村数・馬数……………591

表20 牛附荷物庭銭の動き……………591

表21 文政の荷物駄数……………595

表22 楽宮様通行助郷人馬割……………596

第一節 災 害

図1 片倉村年貢高(本高のみ)の変動……………609

図2 天明四年〜寛政六年の米穀相場……………617

図3 川除普請に使用された主な工法……………641

写1 延宝三年(一六七五)年貢割付状……………610

写2 天明三年(一七八三)御影役所への願書……………615

写3 寛政十一年(一七九九)郷藏普請の願書……………627

写4 寛政十一年(一七九九)郷藏絵図……………628

写5 寛保三年(一七四三)川除御普請の願書……………631

写6 寛保三年(一七四三)川除御普請の願書……………632

表1 江戸時代のおもな災害……………607

第二章 教育・文化

図1 神社の所在地図……………683

図2 新海神社境内……………687

図3 天満宮の参道と境内……………688

図4 春日造りと流れ造り……………691

図5 象鼻などの比較……………693

図 6	神明造り……………	663
図 7	熊野神社(名称と特徴)……………	695
図 8	太宮(諏訪大宮社)の境内……………	697
図 9	諏訪社の境内と石灯笼の銘……………	698
図 10	海老虹梁の下側の「錫杖彫」の拓本……………	699
図 11	錫杖彫や妻飾りの拓本……………	700
図 12	上新の「諏訪社、春日社」と合殿の形式……………	701
図 13	象鼻各種(頭部が丸い)……………	705
図 14	象鼻、木鼻(G)の比較(拓本)……………	706
図 15	拳鼻(A)と木鼻(B)……………	707
図 16	墓股(A、B)と脇障子(C)……………	708
図 17	拓本、脇障子の支え柱のデザインなど……………	709
図 18	入布施の「熊野社」「諏訪社」……………	710
図 19	名称(流れ造りの透視図)……………	711
図 20	安永二年(一七七三)小平村百姓持林秣場絵図……………	723
図 21	明和年間小平村絵図……………	723
図 22	安永五年(一七七六)小平村新古別田畑絵図……………	724
図 23	明治初年小平村地籍全図……………	725
写 1	心学五倫書……………	655
写 2	寺子屋 机……………	657
写 3	寛保三年(一七四三)五味多之助の手本……………	659
写 4	永井松右衛門の言葉塚……………	661

写 5	手良児式目……………	661
写 6	文政四年(一八二一)古状余師……………	663
写 7	寛政五年(一七九三)駒牽集と原版……………	667
写 8	俳句の短冊……………	669
写 9	俳諧歌……………	670
写 10	伏種の歌碑……………	671
写 11	笠房の色紙……………	674
写 12	寛保三年(一七四三)五味多之助の手本……………	677
写 13	吉澤楠太郎書……………	678
写 14	大森曲川書……………	678
写 15	伊藤祐英書(襖)……………	679
写 16	絵画(手本)……………	679
写 17	絵画(手本)……………	679
写 18	飯塚燕舟の絵画(掛軸)……………	680
写 19	飯島三友の絵画(掛軸)……………	680
写 20	依田晴雲の絵画……………	680
写 21	御桐谷の大神神社拜殿……………	682
写 22	御牧原の稲荷社……………	688
写 23	片倉の伊勢社……………	689
写 24	抜井神社の参道遠景……………	690
写 25	観音寺の稲荷社本殿(流れ造り)……………	690
写 26	上新の諏訪神社の妻飾り……………	692
写 27	岩下の新海神社……………	692

写 28	入新町の皇大神宮と熊野社	694
写 29	宮の入の根神社	695
写 30	下の宮の諏訪神社	696
写 31	大伴神社(三間社)	699
写 32	牧布施の駒形神社	700
写 33	鬼面(一本角の阿形)	702
写 34	大伴神社の向拝上部	702
写 35	抜井神社の「斗」のない墓股	702
写 36	頭貫が反った諏訪神社	703
写 37	頭貫が大きく反った諏訪社	703
写 38	柱間が二つの二間社	703
写 39	古峰社、並列の例	703
写 40	上新の春日社(向拝の「象鼻」)	704
写 41	向拝の頭貫が曲線、象の木鼻	704
写 42	雁村の諏訪社(側面)	709
写 43	明治初年種痘医師	715
写 44	伊藤忠岱の墓	716
写 45	忠岱著書「傷寒論張義定本国字辯」「中庸延撞」「老子 国字解」	717
写 46	忠岱筆写「高野氏平体論」「高野氏総病論」	718
写 47	「むかしあったとき」中の足利氏三代木像梟首事件	719
写 48	荒木流捕手再誕の序	721

第三章 信 仰

表 1	江戸時代の町域における寺小屋の設立状況	660
表 2	神社の分布	684
表 3	「共通点と相違点」比較表	710
表 4	金子成三「調合日記」に見る病状一覧	714
図 1	寛政年間 春日村絵図(一部)	754
写 1	寛永二年(一六二五)大伴神社縁起	731
写 2	弁天社	733
写 3	「太宮諏方両宮」の鳥居の額字	734
写 4	嘉永二年(一八四九)諏方宮正遷宮行列帳	735
写 5	城光院 鐘	741
写 6	弘化四年(一八四七)梅溪院の念仏塔 大森曲川書	743
写 7	文化十二年(一八一五)康国寺開山大雪和尚二百年忌	744
写 8	天保十五年(一八四四)牌格金割賦帳	747
写 9	常福寺	748
写 10	無量寺の六地藏	750
写 11	大応院のほら貝	752
写 12	日記のさし絵	754
写 13	和鑽の書	759
写 14	貞享五年(一六八八)佐久三十三所順礼歌	761
写 15	貞享五年(一六八八)順礼歌	761
写 16	新小路幟	764

写17 文化六年（一八〇九）装束付帳……………765

表1 江戸時代の神社名と所在地……………730

表2 江戸時代の寺院一覧表……………740

第一章 支配体制